

2012年2月13日（月）

「神奈川県地域生活定着支援に関するシンポジウム」

研修会参加感想記

【研修参加者①】

今回のシンポジウムでは、初めて元受刑者の方のお話を伺うことができ、とても貴重な体験となりました。講演者の山本譲司先生は、実際に障害のある受刑者たちの世話係をお務めになられたということもあり、先生の体験談は大変興味深いものでした。

また、パネルディスカッションでは、連携をして処遇しなければならないのだということが印象的でした。地域生活定着支援には、地域内のネットワークが重要だと感じました。

【研修参加者②】

知識不足のためシンポジウムの内容を理解できるか不安だったのですが、福祉の最後の砦が刑務所になってしまっている、という山本譲司さんのお話はとても興味深かったです。

また、司法と更生保護を分けるべきではないという意見にも納得させられました。社会の高齢化が進むにつれ刑務所内での高齢化も進んでおり、加えて刑は長期化の傾向にあるため、高齢受刑者、出所者の処遇はとても大きな課題になっているのではないかと思います。今回のお話を聞いて、高齢者、障害者には個別具体的に対処していかなければならないという理想と、慢性的な予算、人員不足という現実が大きく隔たっていると感じました。

以上